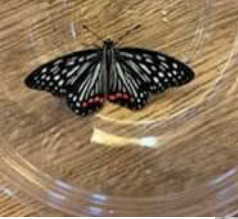


事業活動実績報告書

施設名	東江幼稚園		
教育理念	「人と関わる力」「しなやかに動かせるからだ」「自然から学ぶ体験」を育てる		
事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現		
1 事業名	自然・緑豊かな園庭での虫はかせ活動		
2 実施期間	令和 6年 5月 10日 ～ 令和 6年 11月 22日		
3 取組概要	(取組日) 令和6年5月10日 ・ 令和6年5月17日		
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること		
	①蝶の良く来る樹木で待ってみよう ②虫網の使い方を知る 虫好きの子を中心に、虫アミを使えるということに興味を持った子も含めて、園庭内で虫探しをした。虫博士が、虫がいそうな場所を子どもに伝え、様々な虫を発見していった。子どもや虫博士が捕まえた虫は観察ケースに入れて、名前や生態を教えてもらった後に、元居た場所に放した。		
	(取組日) 令和6年 6月14日 ・ 令和6年6月25日		
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること		
3 取組概要	(取組日) 令和6年 7月 5日 ・ 令和6年7月9日		
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	 	
	園庭にもセミの季節到来！ 今回はニイニゼミが泣いていました。また、アブラゼミの抜け殻が見つかりました。蟬の時期がはじまっています。蝶、トンボ、バッタ、甲虫類、甲殻類など虫も多く見つかりました。		
3 取組概要	(取組日) 令和6年 9月 9日 ・ 令和6年9月 12日		
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	 	
	暑さに注意しながら、虫探しを行った。木陰は涼しく、虫も木陰で見つけられました。 モンシロチョウ、ナミアゲハ、アオスジアゲハ、スジキリヨトウ、ナミテントウ、シオカラトンボ、オオスズメバチ、スズバチ、クラズミウマ、クロヤマオアリ、トビヒロシワアリ などたくさんの種類の虫を見つけました。		

3 取組概要	(取組日) 令和6年 10月 15日 ・ 令和6年10月16日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	園庭で見つけられた昆虫類。①蝶、②トンボ ③カマキリ④ 甲虫類 ⑤ 甲殻類 ⑤ その他 ヤスデなど アキアカネが多く飛来しました。トンボは普段はすばしっこくて捕まえるのは難しいですが、タンデムで産卵をしている時は比較的捕虫しやすく、幼稚園の子どもたちも捕獲しています。	
	(取組日) 令和6年 11月 5日 ・ 令和6年11月22日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	園庭で見つけられた昆虫類。①チョウ、②ニクバエ ③ 甲虫類 ④ 甲殻類 ⑤ その他 お天気でしたが気温が低く、ほとんど飛来する虫が無く、土壌昆虫を楽しんだ一日でした。 落ち葉やどんぐりについても拾って観察しました。	
	(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
	(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日		
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの	
(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日		
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの	

効果検証報告書

施設名	東江幼稚園
教育理念	「人と関わる力」「しなやかに動かせるからだ」「自然から学ぶ体験」を育てる

事業の区分(5領域)		健康 ・ 人間関係 ・ 環境	言葉 ・ 表現
計画時	1 事業名	自然・緑豊かな園庭での虫はかせ活動	
	2 事業概要	自然環境豊かな当園の園庭に、虫博士を招いて子どもたちと園庭の虫、生き物を探し、個体名を知り、生態を知り、特徴を知り、触れたり見たりして観察する。それらの経験を通じて自然の大切さ面白さを学ぶ。	
	3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 ・園児105名に対して、広い自然豊かな園庭(1140㎡)が当園にはある。 ・園庭には果樹9種類を含めて、15種以上の様々な樹木や多くの草花がある緑豊かな環境である。園庭の土は成田から山砂を搬入して、凸凹で水遊び泥遊びができる状態になっている。水遊びをしていると、トンボやチョウチョなどがすぐに飛んできく様子が見られる。蟻だけで10種類以上生息する豊かな環境がある。 ・生き物、自然に詳しい専門家(葛飾自然観察グループ・メジロの会会員)が月に1～2回来園して、園児に指導することができる。子どもたちは虫博士がいないときでも、豊かな自然の中で自分で進んで虫と関わる事ができる。	
	事業後	3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 園庭の自然環境を活用した活動により、子どもたちは自然や生き物への興味関心を深め、観察力や探究心を育みました。また、虫博士の指導だけでなく、自発的な活動を通じて自信と主体性が向上しました。 専門家の訪問頻度を増やし、より多くの具体的な知識や経験を提供することで、さらに学びを深められる可能性があります。また、親を巻き込んだ活動を導入することで、家庭での自然教育への広がりも期待できます。
計画時	4 事業のねらい	遠くの自然より、足下の自然を知る。自然環境豊かな園庭に、虫博士を招いて、園庭という身近なところにも多くの生き物、植物が生きていることを知り、親しみ、興味を持ち、知りたくなり、守りたくなる。自然環境に興味関心を持つようになって欲しい。そして興味関心を持ったことを学んでいくことの楽しさを知って欲しい。	
	事業後	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 園庭という身近な自然環境を活かした活動を通じ、子どもたちは昆虫や植物など多様な生き物に親しみを持ち、自然の豊かさや大切さに気づくことができました。「虫博士」の存在が自然への興味を引き出し、子どもたちは探求心を育むとともに、自ら学び考える姿勢が醸成されました。 雨天時の代替プログラムや室内でも自然について学べる方法を取り入れると、計画の柔軟性が向上すると考えられます。
	5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 (5月から11月を中心に)月1回程度、「虫博士」として来園して、子どもたちと園庭を散策し昆虫を採取、観察する。 昨年の5月の回ではシオカラトンボ、モンシロチョウ、ナミアゲハ、アオスジアゲハ、セボシジョウカイ、トビイロケアリ、クロヤマアリ、等の昆虫を見つけた。園児にとっては毎日過ごす園庭であるので、虫博士の来ているその時限りではなく毎日継続して昆虫を探したり触れたりすることが出来る。 報告書を作成し、図書スペースで自由に保護者が閲覧できるようにする。そのことで、保護者にも関心を持ってもらい、園児が虫や自然により関心を持つことにつながる。	
	事業後	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 園児への直接的な、関わりに加えて、「虫はかせ」新聞を掲示したことで、保護者も園庭の自然について目を向けるようになった。まだまだ、一部の保護者ではあるが、幼稚園が保護者向けに昆虫採集の仕方や、自然環境への考えを継続して伝えていくことも大切だと考える。

6 環境構成	・園庭に虫網と虫かごを持ちあつまり、昆虫採集をおこなう。採集した物はすぐその場で、虫博士に名前や特徴を教えてもらい、子どもたち全員で情報共有をする。 ・雨天時や虫が少ない時期などは、昆虫図鑑を見たり、植物を見たり、事前に野山で採集してきた、生き物(シュレーゲルアサガオ、アカハライモリなど)をみて、専門家から特徴や飼育方法生態について説明を受ける。 <u>収納場所の改善。使い終わった虫網を放置してしまったり、泥を入れて運んだりするなど、誤った使い方をしてしまう子がいた。虫網置き場を、一本ずつ差し込んで収納できるように改良し。必要な時には使う。使い終わったら戻すことで次に使いやすくなる環境を自ら作れるようにする。</u>
事業後	6についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 虫アミの使い方について、各担任から丁寧に伝えることで、昨年度よりも丁寧に使えていた。園児が自分で使用し、片付けができるようにきちんとした置き場を作ったことは良い方法であった。
7 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 月1回の虫博士訪問日をきっかけとして、日々昆虫などの生き物を見つけ捕獲することで、自然への関心を高めた。また、自然環境への関心を高めることで生物多様性の保全や生態系の持続可能な管理に、将来的につながっていく。SDGs目標15の陸生生態系の保全、回復、持続可能な利用につなげていく。
事業後	7についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 温暖化の進行に伴い、これまで関東地域で見られなかった昆虫が確認されるようになり、環境の変化が明確に表れています。この変化を捉える活動としても、園児たちは虫との触れ合いや観察を通じ、単なる知識習得にとどまらず、体験を通じて学ぶ機会を得ています。これにより、子どもたちは環境への理解を深めるとともに、将来的に自然環境保全への意識を育む可能性が高まっていると考えられます。
8 効果検証 総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 園庭は木々や草花が生い茂る豊かな自然環境に恵まれています。園児たちは常に、身近な環境の中で多様な昆虫や動植物と触れ合い、その生態系への興味関心を深めています。当園の自然豊かな園庭を活用した教育活動として、専門家による昆虫観察を実施しました。専門家(虫博士)が園児と共に昆虫採集を行い、生態や特徴をわかりやすく伝えました。 これらの活動を通じて、子どもたちは自然や昆虫への理解を深めるだけでなく、観察力や探究心、他者と協力する力を育んでいます。専門家が居ない時でも、園児自身が「むしはかせ」として役割を担い、自発的に活動を行いました。このような経験は、子どもたちの自信と達成感を育てるとともに、自然環境への愛着と責任感を芽生えさせています。虫博士活動が環境面での教育の一環として大きく貢献しています。